

「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生セミナー・実習を開催しました（2024/12/7-8）

テーマ：スフィア（Sphere）

会場：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2024年12月7日（土）、8日（日）、宮城県仙台市の東北大学災害科学国際研究所で「コンダクター型災害保健医療人材の養成プログラム」災害公衆衛生セミナー・実習を実施しました。2日間でのべ28名の宮城県内外医療従事者、行政職員が受講しました。岡山大学原田奈穂子教授、同大学香田将英准教授、厚生労働省DMAT事務局千島佳也子看護師が講師を務めました。実習コーディネーターを務める佐々木宏之准教授（災害医療国際協力学分野）が会場責任者として運営にあたりました。

スフィアとは人道支援の質と説明責任の向上を目的とし、その原理は以下2つの基本理念に基づいています：①災害や紛争の影響を受けた人びとには、尊厳ある生活を営む権利があり、従って、支援を受ける権利がある、②災害や紛争による苦痛を軽減するために、実行可能なあらゆる手段がとられなくてはならない。技術的項目の、避難所の1人あたりの居住スペースは最低3.5m²、共用トイレは20人に最低1つ、など多くの指標が内閣府「避難所運営ガイドライン」や他の自治体避難所運営マニュアルにスフィア基準として用いられています。受講生は西日本豪雨災害の実例を題材に、避難所で求められる解決すべき最優先課題はなにか、課題解決のためにどのようなスフィア基準を用い、どのような機関と連携し実施しなければならないかなど、核心的・具体的な課題について熱心にグループ討議、発表を行いました。受講者は研修を終え口々に「参加して本当に良かった」「あらゆる支援者が受講すべき」と満足の言葉を述べていました。本実習受講者にはJQAN（支援の質とアカウンタビリティ向上ネットワーク）より修了証が発行されました。

社会の災害対応力向上にはそれを実践できる人材育成が不可欠です。当研究所ではこのような実践的研修会を継続して開催していきます。



「がまんをさせない支援」について解説する原田教授



スフィアは単なる数合わせではないことを解説する香田准教授



様々な背景を持つ避難者へのアプローチを学ぶロールプレイング演習



終了後に全員で記念撮影